

第3章 めざすべきまちの姿

【第1節】 将来都市像

「本市を取り巻く時代潮流」で見たとおり、本市を取り巻く状況は日々変化を続けていますが、今後の和泉市がめざすまちのすがたを考えたときに最も大きな問題となるのは「人口の変化」だと考えています。人口減少・少子高齢化は、税収の減少や人材不足だけでなく、まちの活力を損なう要因であり、最も優先的に取り組むべき課題と捉えています。全国的に進展するこの課題に向けて、和泉市に住む人が和泉市をもっと好きになり、その声が「選ばれるまち」として新たな和泉市民を生み出し、本市をこれからも持続的に発展できるまちにしていきたい。そのような思いを込め、将来都市像を次のとおり設定しました。

住めば住むほど好きになる ちょうどいいまち 和泉

「ちょうどいいまち」とは、性別や年齢、その他さまざまな違いを持ちながらも、和泉市に住む人すべてが、和泉市の暮らしを「ちょうどいい」と感じられるような魅力と快適性に優れた、総合力あるまちであり、次のようにイメージしています。

①地理的・環境的に「ちょうどいい」

大阪都心への良好なアクセスや小回りの利く市内の公共施設を高め、また、大阪市内まで外出せずとも魅力ある商業施設が立地するなど、都会の利便性を持ちながら、里山や農地といった豊かな自然も身近に広がり、都市と自然の魅力が調和した「ちょうどいい」まちです。

②暮らしの質が「ちょうどいい」

安心して子どもを育てることができ、誰もが必要な学びを得て、喜びや生きがいを感じることができるまちです。誰もが自立した生き方を送ることができ、必要になった時には、適切な福祉や医療・介護サービスを受けることができます。

必要な生活インフラが充実し、それぞれのライフステージや多様な価値観に応じた暮らしを送ることができる「ちょうどいい」まちです。

③人とのつながりが「ちょうどいい」

地縁によるつながりだけでなく、趣味や共通の目標によるつながりも広がり、出会いや交流が促され、個人が尊重され、困った時には気軽に相談でき、支え合うことのできる温かさを感じられるコミュニティが形成された「ちょうどいい」まちです。

全国的に人口減少・少子高齢化が今後ますます進む中であって、和泉市は総合力と活力のあるまちづくりにより、市外住民には「住んでみたい」と思っていたただけでなく、実際に住んでいただけるよう取り組みを進め、一層の発展をめざします。

本市がこれからも持続的に発展を続け、市民一人ひとりが、自分らしい幸せを見つけ、かけがえのない故郷として愛し続ける和泉市にしていきたい。本市は、誰もがそれぞれの個性を輝かせ、性別や年齢、背景に関わらず互いに尊重し合いながら、ともに豊かな未来を創り上げていく、「ちょうどいい」まちにチャレンジします。

成長、チャレンジといった要素を追加(神谷委員)

第3章 めざすべきまちの姿

【第1節】 将来都市像

「本市を取り巻く時代潮流」で見たとおり、本市を取り巻く状況は日々変化を続けていますが、今後の和泉市がめざすまちのすがたを考えたときに最も大きな問題となるのは「人口の変化」だと考えています。人口減少・少子高齢化は、税収の減少や人材不足だけでなく、まちの活力を損なう要因であり、最も優先的に取り組むべき課題と捉えています。全国的に進展するこの課題に向けて、**定住促進や来訪促進に引き続き取り組み、市外の人から「住んでみたい」と感じていただくとともに、**和泉市に住む人が和泉市をもっと好きになり、その声が「選ばれるまち」として新たな和泉市民を生み出し、本市をこれからも持続的に発展できるまちにしていきたい。そのような思いを込め、将来都市像を次のとおり設定しました。

市外の住民の転入促進をめざす要素を追加(神谷委員、山本委員)

住んでみたい、住めば住むほど好きになる

ちょうどいいまち 和泉

「ちょうどいいまち」とは、性別や年齢、その他さまざまな違いを持ちながらも、和泉市に住む人すべてが、和泉市の暮らしを「ちょうどいい」と感じられるような魅力と快適性に優れた、総合力あるまちであり、次のようにイメージしています。

同左

①地理的・環境的に「ちょうどいい」

大阪都心への良好なアクセスや小回りの利く市内の公共交通は通勤や通学の利便性を高め、また、大阪市内まで外出せずとも魅力ある商業施設が立地するなど、都会の利便性を持ちながら、里山や農地といった豊かな自然も身近に広がり、都市と自然の魅力が調和した「ちょうどいい」まちです。

②暮らしの質が「ちょうどいい」

安心して子どもを育てることができ、誰もが必要な学びを得て、喜びや生きがいを感じることができるまちです。誰もが自立した生き方を送ることができ、必要になった時には、適切な福祉や医療・介護サービスを受けることができます。

必要な生活インフラが充実し、それぞれのライフステージや多様な価値観に応じた暮らしを送ることができる「ちょうどいい」まちです。

③人とのつながりが「ちょうどいい」

地縁によるつながりだけでなく、趣味や共通の目標による輪が広がり、出会いや笑顔であいさつを交わし、個人が尊重され、困った時には気軽に相談でき、支え合うことのできる温かさを感じられるコミュニティが形成された「ちょうどいい」まちです。

全国的に人口減少・少子高齢化が今後ますます進む中であって、和泉市は総合力と活力のあるまちづくりにより、市外住民には「住んでみたい」と思っていたただけでなく、実際に住んでいただけるよう取り組みを進め、一層の発展をめざします。

本市がこれからも持続的に発展を続け、市民一人ひとりが、自分らしい幸せを見つけ、かけがえのない故郷として愛し続ける和泉市にしていきたい。本市は、誰もがそれぞれの個性を輝かせ、性別や年齢、背景に関わらず互いに尊重し合いながら、ともに豊かな未来を創り上げていく、「ちょうどいい」まちにチャレンジします。

同左